

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	24-414	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名（原題／訳）		
Clinical Validation of Reduced Alcohol Consumption After Treatment for Alcohol Dependence Using the World Health Organization Risk Drinking Levels 世界保健機関（WHO）のリスク飲酒レベルを用いたアルコール依存症治療後のアルコール摂取量減少の臨床的検証		
執筆者		
Katie Witkiewitz, Kevin A Hallgren, Henry R Kranzler, Karl F Mann, Deborah S Hasin, Daniel E Falk, Raye Z Litten, Stephanie S O'Malley, Raymond F Anton		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2016 Dec 26;41(1):179–186. doi: 10.1111/acer.13272		
キーワード	PMID	
世界保健機関のリスク飲酒レベル、アルコール依存症、アルコール消費量の減少、アルコール治療の結果、ハームリダクション	28019652	
要旨		
<p>背景：アルコール使用障害（AUD）は、個人的にも社会的にも多大なコストを伴う、非常に蔓延している公衆衛生上の問題である。禁酒はAUDの治療対象として最も広く受け入れられているが、治療の選択肢を著しく制限し、飲酒量を減らしたいと考える人が治療を受けることを躊躇させる可能性がある。アルコール臨床試験の主要アウトカムとして飲酒量の減少を臨床的に検証することは、治療の選択肢を拡大するために極めて重要である。アルコール治療のアウトカムの指標として有用な可能性があるのは、世界保健機関（WHO, International Guide for Monitoring Alcohol Consumption and Related Harm. Geneva, Switzerland, 2000）のアルコール使用のリスクレベル（超高リスク、高リスク、中リスク、低リスク）の低下である。例えば、WHOのリスクレベルの2段階の低下（例えば、高リスクから低リスクへ）は、欧州医薬品庁（2010年、アルコール依存症治療のための医薬品開発に関するガイドラインがアルコール依存症（AD; Mann et al. 2013, Biol Psychiatry 73, 706-13）の治療薬としてナルメフェンを評価するために使用している。</p> <p>方法：本研究は、COMBINE試験（n=1,383 ; Antonら、2006）の二次データ解析であり、AD患者における治療中および治療後のWHOリスクレベルの低下とアルコール関連問題および精神症状の低減との関連を検討した。</p> <p>結果：治療中のWHOリスク飲酒レベルの低下は、治療終了時および治療後1年までの間、アルコール関連問題の有意な減少および精神的健康の改善と関連していた。WHOリスク飲酒レベルの減少が大きいほど、結果の減少および精神的健康の改善が大きいことが予測された。</p> <p>結論：WHOリスクレベルの変化は、アルコール臨床試験の有効なエンドポイントであると思われる。今回の知見に基づくと、治療中のWHOリスク飲酒レベルの低下は、アルコールに関連した結果の有意な減少と生活機能の改善を反映している。</p>		